

### 3-2. 舞鶴市の関連文化財群の設定によるまちづくりの推進

関連文化財群は、有形・無形、指定・未指定を問わず、地域に存在する様々な歴史文化遺産を歴史的、地域的関連性等に基づいて、一定のまとまりとして設定するものとされている。つまり、特定のテーマやストーリーのもとに、単体の歴史文化遺産を関連文化財群として一体に、その魅力や価値をわかりやすく伝えることにより、地域の歴史や文化を語る重要な資産として、総合的に保存・活用することを目的としている。

歴史文化基本構想に定める内容は、市町村の状況に応じて、適切な構成とすることとなっているが、「文化審議会文化財分科会企画調査会報告書」では、関連文化財群を設定したうえで、これを記載することが提言されている。

本市の歴史文化は、前述したように舞鶴湾に代表される海を基盤として、歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくため、次のように、6つの関連文化財群を設定して、ストーリーを紡ぐものとする。

#### (1) 多様な自然に育まれた歴史文化

舞鶴市から中国山地に延びる特異な地質である舞鶴帯は、古生代の終わりに海が陸化しはじめた際の海と陸の境目にあり、アンモナイトや二枚貝の化石、漣痕化石を残す太古からつながる海の記憶である。また、新生代である1500万年前のタブや広葉樹の化石を残す冠島、溶岩ドームのように盛り上がってきた青葉山など舞鶴湾を取り囲む地形・地質は舞鶴市の歴史文化の基盤をなす地形・地質である。

さらに、リアス式海岸特有の海岸線、オオミズナギドリ繁殖地である冠島やレッドデータブックに記載されている希少種の生息地かつウミネコ繁殖地である沓島、そして美しい山容と希少植物が保全されている青葉山は現在も舞鶴市の海から生まれた自然の豊かさを継承している。

舞鶴市特有の太古の海からつながる多様な自然は、舞鶴市の成り立ちを語るうえで欠くべからざる要素となっている。

ストーリーを構成する主な歴史文化遺産		
舞鶴帯	オオミズナギドリ繁殖地(冠島)	青葉山のオオキンレイカ
舞鶴湾のリアス式海岸	ウミネコ繁殖地(沓島)	三浜海蔵寺のシイ林
石灰岩・石炭層	ニホンカモシカ	多祢山のイヌシデ巨木林
漣痕化石	オオサンショウウオ	成生岬のスダジイ巨木
ビカリア等化石群包蔵地		松原神社のウラシマソウ群落

## ものがたり1：多様な自然に育まれた歴史文化

### ○舞鶴誕生とその記憶

舞鶴市は北をリアス式の海岸線が美しい若狭湾に面し、三方を山岳・丘陵部で取り囲むような地形的特徴を有している。

火山活動により噴出した青葉山は、孤立の山塊であり、その美しい山容から若狭富士とも呼ばれ、丹後富士とも呼ばれる由良ヶ岳、丹波富士とも呼ばれる弥仙山とともに、丹後の三山として、古より信仰の山として崇敬され、地域のランドマークとして親しまれている。

また、若狭湾の沈降と海面の上昇によって形成された舞鶴湾は、入り組んだ地形によって、日本海の荒波が入り込まず、波も穏やかで、五老岳より眺める風景は、人々の心を落ち着かせる。

こうした山々と舞鶴湾の複雑な海岸線が織り成す景色は、天候や時刻、四季折々に多様な表情をみせ、風光明媚な景観をつくりだしている。

舞鶴市の起伏に富んだ地形は、日本列島の誕生とともに形成され、それは地球の記憶として、舞鶴帯に刻まれている。

2億年前、舞鶴は海と陸の境目であった。吉坂や志高の石炭層からは、陸上で育つ大型植物の化石が産出され、荒倉からは、アンモナイトなど貝の化石が産出され、海であったことを示しており、活発な地殻変動の様子がみ取れる。岡田由里からは、国内最大級の波の化石（漣痕化石）が発見されており、当時の環境と発達史を解明する手がかりになるといえる。

冠島から産出される1500万年前の広葉樹の化石は、かつてこの地が湖の底であったことを示し、再び起こった地殻変動の痕跡を残している。また、柄尾で産出されるマングローブ沼に生息するビカリアの化石から、当時の気候が亜熱帯であったことが推定されるなど、今もなお、市内のあちこちで、遙か古の記憶に触れることができる。

こうして長い歳月を重ねてつくりだされた地形は、恵み豊かな自然環境を育み、多くの生物の生息地・生育地となり、舞鶴独自の生態系をつくり出すこととなる。

### ○多種多様な動植物が生息・生育する自然の宝庫

複雑な地形と、比較的温暖な気候により、市内では、温かい地域と寒い地域の双方の動植物が生息・生育している。

日本固有種であるオオキンレイカは、青葉山でのみ自生する貴重な植物である。このほか、青葉山には、近畿地方では珍しいヒモカズラなど、高山植物や珍しい植物がみられることから、山陰地方における高山植物の宝庫として知られている。

成生岬ではスダジイ巨木、多祢山ではイヌシデの巨木が生い茂っており、神秘的で幻想的な空間となっている。また、市内では、特別天然記念物のニホンカモシカの生息が確認されており、生息環境が整っていることを裏付けている。

無人島である冠島は、対馬暖流の影響を受けて、島中が暖帯植物による原生林に覆われている。また、冠島はオオミズナギドリ繁殖地として、沓島はウミネコ、ヒメクロウミツバメの繁殖地として保全されており、多くの水鳥たちが、島の周辺や海面を飛翔する姿は圧巻である。

由良川河口に位置する神崎海岸は、広い砂浜と松林が特徴的な白砂青松の海岸である。そんな松林のかたわらには、ハマナスやササユリ、オニユリなど数十種類の海浜植物が咲き乱れ、心和む景観をつくりだしている。

舞鶴市内を流れる河川には、美しい自然のなかで生きる特別天然記念物のオオサンショウウオが確認されている。

さらに、舞鶴湾は岩礁地帯、砂泥地、泥地、藻場などの多様な生活環境を反映し、約200種類の魚類が確認されている。こうした、多種多様な生物が暮らすことのできる素晴らしい自然環境は、私たちの心に、やすらぎと豊かな潤いをもたらしてくれる。

市街地には、人との共存によって、情緒あふれる景観をつくりだしている樹々や植物がある。

松尾寺には、鳥羽天皇と美福門院によって手植えされたと伝えられる、樹齢約800年のイチョウがあり、かたわらに建つ鐘楼とともに情趣ある景観を形成している。金剛院には、平城天皇の皇子高岳親王が手植えされたと伝えられるカヤがあり、天にむかって直立する様は、圧倒的な存在感を放っている。海蔵寺の裏山のシイ林には、津波から村人を守った言い伝えが残されており、「聖なる山」として、地域の人々から親しまれ、今も守り継がれている。松原神社の境内には、ウラシマソウが数百株も群生しており、鎮守の森とともに生育する姿は、他に類をみないものとなっている。これら樹々や植物は、市の天然記念物に指定されており、寺社の歩んだ歴史とともに、風情ある景観をつくりだしている。

### ○多様な自然に育まれた歴史文化

このように、舞鶴市には、山から川、海にかけて、豊かな自然とともにたくさんの生き物が生息している。国や京都府のレッドリストに含まれる希少な動植物も数多く生息・生育しており、自然の宝庫ともいべき多種多様な自然によって、魅力あふれる自然景観をつくりだしているのである。

表 3-1 主な歴史文化遺産の概要（多様な自然に育まれた歴史文化）

舞鶴帯	舞鶴市から西南西に福知山市金山・川口地域に至る狭長な地帯で、幅は20kmほどである。夜久野複合岩類、中・上部ペルム系舞鶴層群、下・中部三畳系夜久野層群、上部三畳系荒倉層、難波江層群で構成される。北西側より夜久野岩類、舞鶴層群、夜久野層群、舞鶴層群、難波江層群と荒倉層、夜久野岩類の帯状配列が認められる。なお、舞鶴附近の北西縁部には以上の帯状配列に加え、大江山超塩基性岩体が分布している。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
舞鶴湾のリアス式海岸	リアス式海岸とは、浸食で多くの谷の刻まれた山地が、地盤の沈降または海面の上昇によって沈水し、複雑に入り組んだ海岸線をなすもの。福井県敦賀市付近から京都府宮津市、伊根町にかけて続く若狭湾は入り組んだ海岸線が続き、日本を代表するリアス海岸の発達地域。若狭湾西部の舞鶴湾は、宮津湾や小浜湾と同様に入り組んだ地形の奥に成立したリアス式の湾入部をなす。 [出典：舞鶴市HP、京都府レッドデータブック2015]
石灰岩・石炭層	石灰岩は舞鶴層群中に、厚さ20～50mの石灰岩が、レンズ状に挟まっている。金剛院の近傍で現在も採掘が行われている。また、松尾寺北方にも採掘跡があり、現場付近では、石灰が製造されていた。石炭層は、志高層群の上部層は砂岩、泥岩を主とし礫岩を挟んでいる。この中に厚さ1～2mの炭層が1層挟まれている。炭質は無煙炭の粉炭である。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
漣痕化石	漣痕はリップルマークと呼ばれ、河川や海域で水の流れが砂粒を底面に沿って移動させるときに底面にできる模様（形態）である。志高層群の含礫砂岩層の上面に発達した漣痕は、国指定の他県の天然記念物に匹敵する規模と形態もっている。三畳紀の舞鶴帯の環境と発達史を解明するための貴重な資料である。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
ピカリア等化石群包蔵地	昭和49年（1974）夏、舞鶴市柘尾細野の舞鶴カントリークラブの造成工事で、黒色頁岩層から保存のよいピカリア化石が大量に産した。それには現在、奄美大島より南のマングローブ沼に生息するマングローブシジミとキバウミナをともなっていた。この地層は内浦層群下累層塩汲峠礫岩砂岩部層で、ピカリア化石など14種を産した。そしてピカリアの幼貝から成貝までの各成長段階の個体が産し、マングローブ沼泥底付近の群集であるという。舞鶴市指定天然記念物。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
オオミズナギドリ繁殖地（冠島）	オオミズナギドリは、全長49cm。頭部は白色地に黒褐色の斑が散在し、背面は褐色。尾、風切は黒褐色、腹部は白色。太平洋やインド洋を生活の場としており、繁殖のために2月下旬頃、日本へ飛来し、6月中旬頃に卵を一個産卵、8月中旬頃孵化、11月上旬に、島を離れる。その数、約20万羽と推定されている。京都府下で唯一生息している冠島は、面積22.3ha、最高地点の標高169.7mの無人島で、国の天然記念物に指定されており、許可なく無断で上陸することはできない。 [出典：京都府HP]
ウミネコ繁殖地（沓島）	ウミネコは、全長47cm。翼開長120cm。背や翼の上面は濃青灰色で初列風切の先は黒く、尾の基部は白くて先は黒い。足は黄色。国内に留島または漂島として生息する。舞鶴市沓島には数千巣の集団営巣地がある。近年、舞鶴市冠島に集団営巣地が一時的にでき、丹後半島の漁港の防波堤にも約100巣の集団営巣地がある。舞鶴市指定天然記念物。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
青葉山のオオキンレイカ	青葉山にのみ自生する固有植物のオミナエシ科多年草。高さ30～60cm、花は鮮黄色で、7月下旬から8月頃開花。昭和3年（1928）8月14日、青葉山で初めて採取された。北方・高地型との中間的存在として大変興味深い。舞鶴市指定天然記念物。 [出典：京都府レッドデータブック2015]
三浜海蔵寺のシイ林	ブナ科シイ属。日本の暖帯林の最重要樹種の一つ。本州（福島・新潟以西）、四国、九州に分布する常緑高木。雌雄同株。海蔵寺裏山には、スダジイを主木とする自然林が多く残っている。舞鶴市指定天然記念物。
多祢山のイヌシテ巨木林	カバノキ科クマシテ属。岩手県～新潟県以南の山地に分布する落葉高木。雌雄同株。多祢山の標高約520m地点に群生し、高さ約18mの巨木を中心とした面積約2,000m <sup>2</sup> のイヌシテ林。出現種数は64種、胸高直径20cm以上のものが26本確認され、そのうち1mを超えるものも1本確認され、これほど群生しているのは珍しい。舞鶴市指定天然記念物。
成生岬のスダジイ巨木	ブナ科シイ属。日本の暖帯林の最重要樹種の一つ。本州（福島・新潟以西）、四国、九州に分布する常緑高木。雌雄同株。平成10年に調査され、樹齢300年以上、胸高周囲13.8mもある日本最大クラスの巨木。舞鶴市指定天然記念物。
松原神社のウラシマソウ群落	サトイモ科テンナンショウ属。4月下旬から開花し、肉穂花序の先端の付属体が釣り糸状に長く伸びているのが特徴。松原神社の境内に数百個体が存在。本州や四国などに生育するが、これほど群生しているのは珍しい。舞鶴市指定天然記念物。
特別天然記念物 二ホンカモシカ オオサンショウウオ	二ホンカモシカは個体数の激減が報告されており、目撃が極端に減ってきている。主にブナ、ミズナラなどの広葉樹林針広交林に生息し各種木本類の枝、葉、草本類などを食べる草食性であり、二ホンジカと共通するものも多い。オオサンショウウオは限定された環境を生息場所としているため環境変化に弱く減少傾向にある。低山から平地にかけての流水中に生息し岩石の間や河岸の穴に潜む。開発により繁殖の為の移動が阻止されており、また、外来種のチュウゴクオオサンショウウオの遺伝子汚染が進み雑種が増えている。二ホンカモシカとオオサンショウウオは個体数の激減により、地域を定めぬ国指定特別天然記念物に指定されている。 [出典：京都府レッドデータブック2015]



石炭層(舞鶴炭田)



漣痕化石



ピカリア等化石群包蔵地



オオミズナギドリ繁殖地 冠島



ウミネコ繁殖地 沓島



青葉山のオオキンレイカ



三浜海蔵寺のシイ林



松原神社のウラシマソウ群落

図3-8 主な歴史文化遺産(多様な自然に育まれた歴史文化)

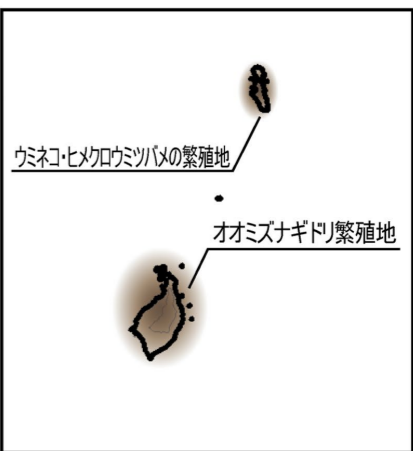
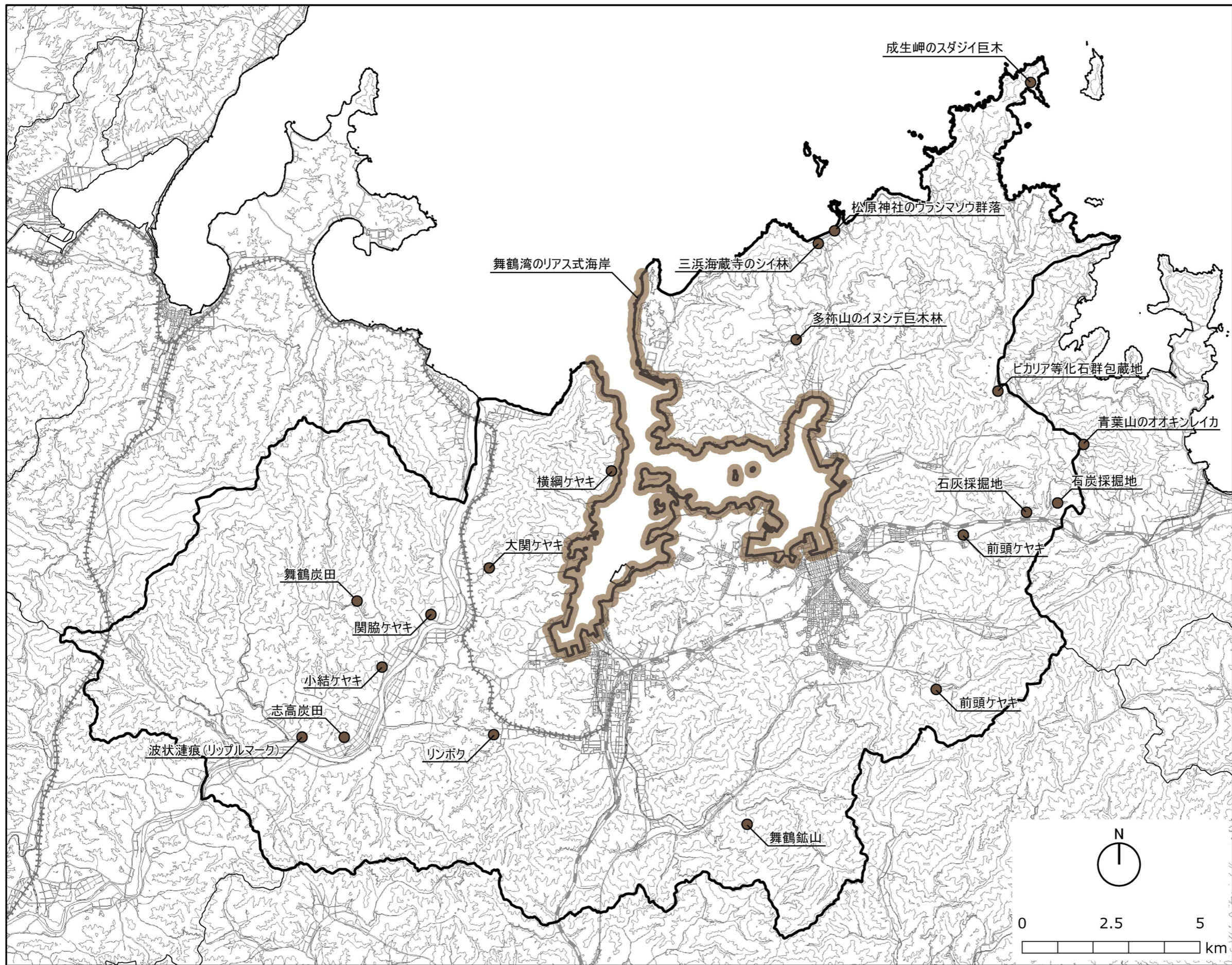


図 3-9 多様な自然に育まれた歴史文化